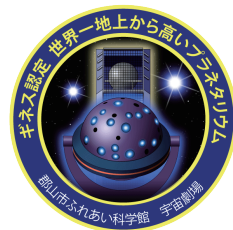


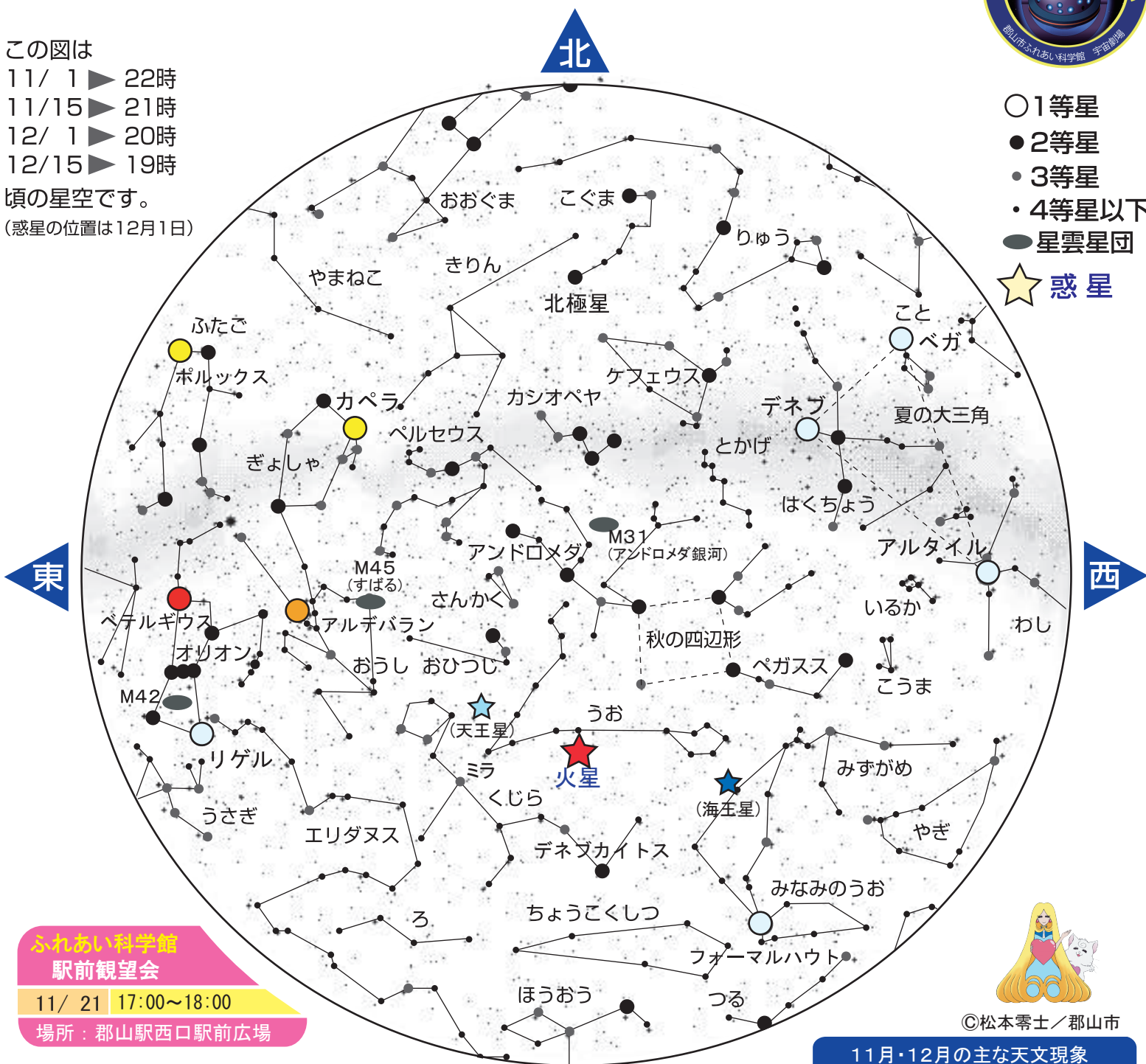
2020年

11月▶12月の星空



- 1等星
●2等星
●3等星
●4等星以下
●星雲星団
★惑星

この図は
11/ 1 ▶ 22時
11/15 ▶ 21時
12/ 1 ▶ 20時
12/15 ▶ 19時
頃の星空です。
(惑星の位置は12月1日)



ふれあい科学館
駅前観望会

11/ 21 17:00~18:00

場所：郡山駅西口駅前広場



©松本零士／郡山市

郡山の日の出・日の入			月の満ち欠け	
11/ 1	6:03	16:41	新月	11/15, 12/15
11/15	6:18	16:28	上弦	11/22, 12/22
12/ 1	6:34	16:21	満月	11/30, 12/30
12/15	6:45	16:22	下弦	11/ 8, 12/ 8

※上弦、下弦は半月です。
※天王星、海王星は肉眼では見えません。

11月・12月の主な天文現象

11/11	水星が西方最大離角
11/17	しし座流星群が極大
12/14	ふたご座流星群が極大
12/22	木星と土星が大接近

2020年ももうすぐ終わりを迎えようとしています。冷え込む日が増えてきましたので、防寒対策を忘れずに今年最後まで星空を楽しみましょう。この時季、南の空では秋の星座が姿を見せています。秋の星座は目立つ星が少なく、落ち着いた空となりますが、まずは秋の目印となる四角形を探してみましょう。この四角形は「秋の四辺形」と呼ばれ、ペガスス座の胴体にあたります。秋の四辺形を見つけたことができれば、西側の辺を南へと伸ばしてみましょう。すると明るい星が見つかります。この星は秋の星空でただひとつの1等星、「フォーマルハウト」です。みなみのうお座の魚の口のところに輝く星で、フォーマルハウトは「魚の口」という意味があります。また、10月に地球への接近が話題となった火星が南の空、秋の四辺形の近くにあります。10月頃よりは暗くなっていますが、ぜひ探してみましょう。

そして、12月には3大流星群のひとつ、「ふたご座流星群」が極大を迎えます。今年のふたご座流星群は、極大の時刻や月齢の条件が良く、多くの流星の出現が期待されます。流星が最も多く現れそうなのは、12月13日の夜から14日の明け方にかけてとなります。流星群を観察するときは、空の広い範囲を見渡しましょう。また、目が屋外の暗さに慣れるまで、最低でも15分ほどは観察を続けるとよいでしょう。ただし、大変寒い季節となりますので、防寒対策を十分に観察をしましょう。

